

柏崎総合医療センター MRI 共同利用申込書 兼 診療情報提供書

医 療 機 関 名			医 師 名		
予 約 日 時	年 月 日		曜 日 :		
フリガナ			生 年 月 日	年 月 日	
患 者 氏 名			検 査 時 年 齢	歳	
性 別	男性 女性		身 長 ・ 体 重	cm	. Kg
住 所	〒 -				
電 話 番 号			当 院 受 診 歴	有り ・ なし	
保 険 証 お よ び 公 費 等 医 療 証 を ご 提 供 い た だ く 場 合 、 保 険 情 報 の 記 入 は 不 要 で す					
保険証記号・番号			医 療 証 負 担 者 番 号		
保 険 者 番 号			医 療 証 受 給 者 番 号		
被 保 険 者 区 分	本人 家族		負 担 割 合	割	

臨床診断	
検査目的	必ずご記入ください

造影検査は eGFR 又は Cre が必要です			採血日 3ヶ月以内	年	月	日
☐ 1: 単純	☐ 3: 単純+造影	eGFR	ml/min/1.73m ²			
☐ 2: 造影	☐ 4: 単純+造影(一任)	Cre	ml/min	eGFRあれば不要です		
【頭部】	【腹部】	【脊椎】	【上肢】			
脳	肝・胆・膵	頸椎	肩関節	みぎ	ひだり	
脳 + 頸MRA	MRCP	胸椎	肩(腱板)	みぎ	ひだり	
頭部系その他	肝ダイナミック	腰椎	上腕	みぎ	ひだり	
【顔面頸部】	肝アリエビスト・EOB	仙尾骨	肘関節	みぎ	ひだり	
頸部	腎		前腕	みぎ	ひだり	
咽頭	副腎	【骨盤】	手関節	みぎ	ひだり	
喉頭	腹部系その他	子宮卵巣	手	みぎ	ひだり	
副鼻腔		膀胱	【下肢】			
甲状腺		前立腺	股関節	みぎ	ひだり	
耳・舌・顎下腺		骨盤系その他	大腿	みぎ	ひだり	
頸部系その他			膝関節	みぎ	ひだり	
【その他】	具体的に		下腿	みぎ	ひだり	
			足関節	みぎ	ひだり	
			足部	みぎ	ひだり	
注意事項	人工関節	有り・なし	ペースメーカー・ICD	有り・なし		
	人工心臓弁	有り・なし	入れ墨・タトゥー	有り・なし		
	人工内耳・中耳	有り・なし	閉所・騒音恐怖症	有り・なし		
	妊娠可能性	有り・なし	その他の注意			
当院記入欄						

該当する検査・指示項目に チェック☑ をつけて患者様へお渡しいただきますようお願い申し上げます。

MRI 検査当日のご案内・注意事項 【患者様用】

患者氏名 _____ 様

予定日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜 日 _____ :

受診当日は 1階 新患（①初診）窓口にお越しください。

混雑状況によって、検査開始が前後したり、順番を変更したりする場合がございます。

●予定されている検査

- ☐ 単純 MRI
☐ 造影 MRI

●予定されている検査部位

- ☐ 肝・胆・膵、MRCP （食事制限があります。●当日の食事、飲水 をお読み下さい）
☐ 肝・胆・膵、MRCP 以外

●来院時の持ち物

☑ 全ての方 1) 保険証 2) 当院診察券（お持ちの方のみ） 3) 紹介書類一式

☐ 造影 MRIの方 4) 検査説明時に渡された『造影剤使用についての問診・同意書』

●来院時の注意

- ・基本的に検査着に着替えての検査となります。
- ・人工心臓弁、人工内耳など体内に金属、人工物のある方は検査できないことがあります。
必ず検査前にお申し出ください。
- ・湿布、ヘアピン、入れ歯、補聴器、そのほか金属類は外していただきます。
- ・アクセサリ、ネイル（マグネット・ジェル）、マスカラ・ラメなどの化粧品、カラーコンタクトは
付けずにお越しください。
- ・入れ墨、タトゥーはやけど、変色の可能性があります。（承諾頂ける方のみ検査可能です。）

●当日の食事、飲水

- ☐ 肝・胆・膵、MRCP の方 → 検査前の食事制限があります。
☐ 午前から検査の方 …… 朝食は食べられません。
内服中のお薬は少量のお水で早めにお飲みください。
- ☐ 午後から検査の方 …… 朝食は早めに軽く済ませ、9 時以降は食べられません。
- ☐ 肝・胆・膵、MRCP以外の方すべて → 食事、飲水の制限はありません。

●飲み薬

- ☐ 飲み薬はいつものように服用してください。

都合が悪くなった場合は紹介元ご施設様へご連絡ください。

検査に関するご質問等は当院までご連絡ください。

柏崎総合医療センター 代表) 0257 - 23 - 2165

紹介元
医療機関

造影剤使用についての問診・同意書
柏崎総合医療センター

フリガナ：			
患者氏名：			
生年月日：	年	月	日
年齢/性別：	歳	男性	女性
身長/体重：	cm	kg	

検査予約日	年 月 日() :		
☐ eGFR ☐ Cre	採血日(3ヵ月以内有効)	年 月 日	

M R I 問 診 票

問 診 者 名	
署 名	

これまでに造影剤を使った検査を受けたことはありますか。 ☐ MRI ☐ CT ☐ 血管造影 ☐ その他 ()	☐ はい ☐ いいえ
これまでに造影剤を使った検査で具合が悪くなったことはありますか。 検査() 症状 ()	☐ はい ☐ いいえ
薬、食物などでアレルギー症状を起こしたことはありますか。 原因() 症状 ()	☐ はい ☐ いいえ ☐ 花粉症 ☐ 酒精綿
以下の病気にかかったことがありますか。 ☐ 気管支喘息 ☐ 腎臓病 慎重投与	☐ はい ☐ いいえ
↳ 「はい」と答えた方で、現在治療を受けていますか。	☐ はい ☐ いいえ
女性の方にお聞きます。現在、妊娠している可能性はありますか。または、授乳中ですか。	☐ はい ☐ いいえ

私は、造影剤の使用について必要性、危険性および合併症などについて説明いたしました。 以上の問診および診察の結果、造影剤の使用を許可します。	紹介元 医師署名

J A新潟厚生連 柏崎総合医療センター病院長 殿	
私は、今回の検査で造影剤を使用することについて理解し、これを使用することに同意します。 また、この医療行為の実施上必要な処置および制約、副作用発現時には必要な処置を受けることに同意します。 なお、検査前であればこの同意書をいつでも撤回できることを理解しています。	
20 年 月 日	代諾者のみ
本人 または 代諾者 署名	続柄

MRI用造影剤(ガドリニウム)使用に関する説明

患者様用

下記の説明をよく読み、造影剤を使用する目的(メリット)と副作用(デメリット)を十分に理解された上で同意書に署名してください。

同意書へ署名が困難な方、自ら判断が難しい方、未成年者の場合等は代諾者が署名してください。同意が確認されるまで造影剤は使用いたしません。また、検査前であれば同意はいつでも撤回することができます。

使用目的

造影剤とは、身体組織の濃淡を強調することで、より正確な画像診断を行うための薬剤です。

具体的には病変の検出率向上や、性質をより詳しく診断することが可能になります。また、血管の状態や、臓器または病変部位の血流状態や特徴が観察できるようになります。病気の種類によっては造影剤を使わないと見つけられない場合もあります。

副作用について

造影剤の安全性は確立されていますが、あらゆる薬剤と同様に副作用が起こることがあります。残念ながら副作用を防止したり、あらかじめ知る方法は現在ありません。今まで副作用がなかった方でも起こることがあります。副作用の症状は様々で皮疹などの軽症から、アナフィラキシーショックや呼吸困難などの重篤なもの、極々まれに死に至ることも報告されていますが、重篤な症状ほど発症頻度は低確率になる傾向があります。

主な副作用の種類と頻度は、悪心や熱感:約1%、蕁麻疹、かゆみ、嘔吐、くしゃみ、紅潮、咳:0.5%未満、動悸、血管痛、呼吸困難、胸痛、悪感・戦慄、嘔声、腹痛:0.1%未満、顔面浮腫、急激な血圧低下:0.01%、意識消失:4万件に1件、心停止:16万件に1件、死亡:40万件に1件といった割合です。

副作用発現時は適切な処置を受けることにも同意していただきます。検査室には迅速に対処できるよう救急カートが常備しており、症状に合わせて対症療法を行います。もし、万が一重篤な副作用が起こったときは、院内に緊急放送することで病院全体で対処する体制を整えています。また、まれに造影剤が血管の外に漏れ、痛みを伴うことがあります。漏れた造影剤は時間と共に吸収されますが、腫れが強い場合には処置が必要になります。

使用後の注意点について

多くの場合、副作用は投与後10分以内に発現しますが、1時間から数日後にも発現する可能性があります。造影剤使用後、発赤、発疹、じんま疹、悪心、嘔吐、血圧低下、頭痛など副作用だと思われる場合は当院にご連絡下さい。

体内の造影剤は約24時間で尿と一緒に体外に排泄されるため、いつもより多めに水分補給をお願いします。水分制限されている方は主治医の指示に従ってください。

特に注意が必要な方

腎機能の低下している方は、造影剤により腎機能が急激に悪化することがあるため、腎機能の数値を血液検査で確認してから行っています。また、造影剤使用の前後に点滴などの処置が必要になることもあります。

気管支喘息の方はない方に比べて10倍、過去に造影剤使用時に副作用の起こったことがある人はない人に比べて4.7倍、心臓の病気のある人はない人に比べて3倍起こりやすいことが知られています。

ガドリニウム製剤・鉄剤・鉄過敏感症の方はMRI用造影剤は使えません。

妊娠中 または 授乳中の方へ

妊娠中の造影剤投与に関する安全性は確立していません。当院では授乳中の乳児への影響は非常に小さいとして、特段の理由がない限り造影剤使用後の授乳制限はしていませんが、主治医とよく相談のうえで行ってください。

次の参考データが日本医学放射線学会から発表されています。(2019年6月時点)

母乳への移行:投与量の0.04%未満(投与後24時間)、乳児の消化管吸収:母乳中の1%未満